

制定日 2016年4月 1日

**Safety Data Sheet**  
安全性データシート

株式会社コベルコ科研  
兵庫県高砂市荒井町新浜 2 丁目 3-1  
担当部門 ターゲット事業本部技術部  
電話番号 079-445-9024  
FAX 番号 079-445-9025  
緊急連絡先 同上

## 1. 品名

ネオジウム

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	項 目	Nd
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	微粉末の場合可燃性あり
	自己反応性化学品	区分外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入・ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類対象外
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
ラベル要素	絵表示又はシンボル	
	注意喚起語	----
	危険有害性情報	<p>その他の有害性物質 (厚生省、通商産業省告示第1号[平成5年3月26日]に定める危険有害物質には該当しない。 有害性:慢性中毒として下痢、嘔吐、食欲不振、腎障害、肝障害等の報告があるが、一般に水に不溶でこの中毒は少ない。</p>

GHS分類	項 目	Nd
ラベル要素 (続き)	注意書き	<p><b>【安全対策】</b>            保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。            粉塵、ヒュームを吸入しないこと。            粉末は極めて着火し易いので、取り扱いに注意し、みだりに放置しない。</p> <p><b>【救急処置】</b>            火災の場合には適切な消火方法をとること。            固着していない粒子を皮膚から払いのけ、多量の水で洗い流すこと。            気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p><b>【保管】</b>            乾燥した場所又は密閉された容器中で保管すること。</p> <p><b>【廃棄】</b>            内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
	国・地域情報:	-----

### 3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名	・ネオジム
化学式または構造式	Nd
官報公示整理番号 (安衛法、化審法)	-----
CAS番号	7440-00-8
国連分類および国連番号	-----

### 4. 応急措置

目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 目の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	付着または接触部を石けん水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流し、速やかに医師の診察を受ける。
吸入した場合	直ちに被災者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移し、速やかに医師の診察を受ける。呼吸困難または呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	意識があるときは吐かせて口の中を水でよく洗浄する。直ちに医師の手当てを受ける。

### 5. 火災時の配置消火剤

消火剤	粉末消火器、乾燥砂、食塩、特殊消火器具（金属火災用薬剤散布器）、水の使用は厳禁
火災時の特定危険 有害性	火災時の加熱によって有害なガスやヒュームを生じる可能性がある。 風上からの消火。風下からの避難。 消火の際の水などによる環境の汚染が生じるので注意する。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	熱や火災に対する消火用耐火服、外気に依存しない重装備の空気呼吸装置、顔面全体を覆うマスクなどを装着して消火活動を行う。

## 6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	安全を確認した上で漏洩部を塞ぐ ロープなどで立ち入り制限区域を設定する。 呼吸装置、本品を直接皮膚、眼などに接触させないための保護衣、保護手袋、長靴を着用する。
環境に対する注意事項:	雨天時や湿気のある場合は環境への流失を抑える。 排水などに流失した場合は環境への影響を考慮し、関係者に連絡する。
回収、中和:	粉状のものは特に発火し易いので発塵しないように注意深く漏洩場所より回収し、安全を確認の上密封容器（不粘性容器）に封入する。 発火の危険性があるので、電気掃除機を使用しない。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	
二次災害の防止策:	作業時に粉塵が舞い立たないように作業を行う。 粉末の場合、粉塵爆発性がある。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れたりしないように、適切な保護具を着用する。 輸送時に、落下させたり、衝撃を与えないこと。または、粗暴な扱いをしない。 粉末は極めて着火し易いので、取り扱いに注意し、みだりに放置しない。 作業後の掃除を徹底する。
貯蔵	熱源、可燃物、強酸、強酸化剤、ハロゲンの近辺に置かない。 特に粉末・箔は火気厳禁、禁水の表示をする。 できるだけ小ロットにして密閉容器に保管する。 乾燥した冷暗所に保管する。 不活性ガスで充填する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	-----
許容濃度	ACGIH(93~94年) Nd: TLV-TWA 1 mg/m <sup>3</sup> その他の呈露限界値、参考値 OSHA(1989) Nd: TWA 1 mg/m <sup>3</sup>
設備対策	屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。
保護具	呼吸用保護具: 吸保護具の使用の要求される環境下では、呼吸保護具を着用する。
	保護眼鏡: 適当な保護眼鏡もしくは安全眼鏡を着用する。
	保護手袋: 皮膚の露出を防ぐために適当な手袋を着用する。
	保護衣: 皮膚の露出を防ぐために適当な保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等	
沸点:°C	
蒸気圧:Pa(20°C)	
揮発性	
融点:°C	
比重または嵩比重	
溶解度	水%(°C):不溶 その他の溶媒%(°C):
その他	-----

## 10. 安定性及び反応性

引火点:℃	情報が入手できません。
発火点:℃	情報が入手できません。
爆発限界:上眼% 下限%	情報が入手できません。
可燃性	粉末・箔では可燃性あり
発火性(自然発火性・水との反応性)	なし
酸化性	情報が入手できません。
自己反応性・爆発性	情報が入手できません。
粉じん爆発性	粉末・箔状の場合、粉じん爆発性あり。
安定性・反応性	強酸、強酸化剤、ハロゲン、空気、湿気と反応する。 水とは常温で、徐々に反応し水素を発生する。
その他	火災時の加熱によって有害なヒュームを生じる可能性がある。

## 11. 有害性情報

腐食性	情報が入手できません。
刺激性(皮膚、眼)	情報が入手できません。
感作性	情報が入手できません。
急性毒性 (50%致死量を含む)	情報が入手できません。
亜急性毒性	情報が入手できません。
慢性毒性	情報が入手できません。
がん原性	情報が入手できません。
変異原性 (微生物、染色体異)	情報が入手できません。
生殖毒性	情報が入手できません。
催奇毒性	情報が入手できません。
その他(水と反応して有害なガスを発生する等を含む)	水とは常温で、徐々に反応し水素を発生する。

## 12. 環境影響情報

情報が入手できません。
-------------

## 13. 廃棄上の注意

再利用のため回収します。
--------------

## 14. 輸送上の注意

キズが付きやすいので落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。
-----------------------------------

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	施行令別表第1 危険物 (発火性の物):微粉末の場合のみ
労働基準法	特定できず
毒物及び劇物取締法	特定できず
消防法	第2条危険物第2類金属粉第2種可燃性 (目開きが150マイクロメートルの網ふるいを通過するものが50%以上のもの)
危険物船舶運送及び 貯蔵規則	特定できず
PRTR法	非該当

## 16. その他

その他 (記載内容の 問い合わせ先、 引用文献等)	記載内容の問い 合わせ先	株式会社コベルコ科研
	引用文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ACGIH発行TLV<sub>s</sub><sup>®</sup> and BEI<sub>s</sub><sup>®</sup>2005</li> <li>• 厚生労働省:職場の安全サイト <a href="http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx">http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx</a></li> <li>• 安全衛生情報センター <a href="http://www.jaish.gr.jp/">http://www.jaish.gr.jp/</a> <a href="http://www.nihs.go.jp/ICSC/">http://www.nihs.go.jp/ICSC/</a> 他</li> </ul>
	改訂履歴	Rev.0:新規制定

\* 危険・有害性の情報は十分ではありません。また、本文書は安全の保証書ではありません